

illustration by Takao Nakagawa



column | RAMPWAY 9

首都高名所案内

楽天地と 時計工場

コラムニスト
泉 麻人

ら、タイ料理の名店密集地として知られている。中華街のまちに固まっているわけではなく、南北のブロックに散在しているので、歩きながら探すのが面白い。料理店に限らず、アジア各国の看板を掲げた飲食店が目につく町である。

駅の南口（東側）に「楽天地」の名を掲げたビルが建っているけれど、この一画が錦糸町の繁華街の原点なのだ。宝塚（歌劇団や遊園地）と阪急沿線の開発で知られる事業家・小林一三が昭和の初めに手掛けた娯楽街で、当初の計画図にはシャレた噴水広場などを設けた、テーマパーク調の街区が描かれている。結果的には、映画館や飲食店が並ぶ歓楽横丁となって、昭和30年代頃までは近隣の町工場の工員たちが遊ぶ、庶民的なスポットとして栄えた。当時、一つの呼びものに天然温泉があった。湾岸ぞいによく湧く、あの黒っぽいナトリウム温泉だが、それはいまも駅前ビル上階の「楽天地スパ」に継承されている（地底からパイプラインで湯を送りこんでいるらしい）。

ガードをくぐった北口の東方に以前からあったロッテ会館は、シテイホテルやレストランを収容した高層ビルに変貌した。先日、館内の店の個室を借

東京の西部で生まれ育った僕にとって、錦糸町はほとんど縁のない町だった。車の免許を取ってからは、千葉方面へ遊びに行くときに7号（小松川）線を使うことがあったけれど、ひと昔前のこの辺は景色もパツとせず、正直いって面白いドライブ区間ではなかった。しかし、いまは東京スカイツリーが間近に眺められる。

この数年、錦糸町でよく行く場所が

ある。駅の北口、東武ホテルなどと隣接する「すみだトリフォニーホール」だ。目的はクラシックのコンサート。いや、僕はさほどクラシックに明るくないのだが、親しくなった友人夫婦に誘われて、中年グループでよく繰り出す。公演がハネた後、周辺のレストランで酒食を交わすのが何より楽しい。

いまだき様々なジャンルの店があるけれど、錦糸町は20年ほどくらい前か

りて、ちょうど正面に見える東京スカイツリーをテーマにした雑誌の座談会があった。

ロッテのビルのすぐ向こうに広がる錦糸公園も関東大震災の復興期に造られた歴史ある公園だ。震災以前は、陸軍の糧秣廠。糧秣——とは、軍馬の秣（まぐさ）を含めた兵隊の食糧倉庫のこと。公園の北側には、ほんの10余年前まで精工舎のクラシクな時計工場の建物が存在した。服部金太郎がここに工場を建設したのは明治25年、つまり当初は錦糸町で商品の時計を製造して、銀座4丁目のお店（現・和光）で売っていたということだろう。

こちらの工場棟も中央に素敵な時計塔が聳え立っていた。スカイツリーと精工舎工場——錦糸公園にやっつくと、そんな新旧ランドマークの2ショットをふと想像してしまう。

いずみ あさと / 1956年、東京都新宿区生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。79年、東京ニュース通信社に入社。「週刊TVガイド」などの編集者を経て、84年、フリーのコラムニスト。近著に「東京考現学図鑑」（編著 学研パブリッシング）がある。

2 コラム RAMPWAY
泉 麻人

特集 スマートドライブ

- 5 「スマドラ」の発想
放送作家・脚本家
東北芸術工科大学 デザイン工学部 企画構想学科長
小山薫堂
- 9 ユーザー主体の交通安全対策
千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科 教授
赤羽弘和
- 12 コラム バイ・ザ・ウェイ 太田治子
- 14 CHALLENGE スマートウェイの実現へ
- 15 データ物語
首都高の交通事故多発地点って…???
- 16 首都高HEADLINE
- 18 business essay
高速道路のアフォーダンス
東京大学大学院 教育学研究科 教授
佐々木正人
- 20 つくる人まもる人
首都高パトロール株式会社
荻 洋
- 22 高速百景 中野正貴

cover photo by Minoru Saito
contents produced by
Metropolitan Expressway Company Limited